

未曾有の大震災を後世に伝えるための資料集

3.11の記録 東日本大震災資料総覧

山田健太・野口武悟 編集代表 「3.11の記録」刊行委員会 編

震災篇

A5・580頁 定価(本体19,000円+税)

ISBN978-4-8169-2423-1 2013年7月刊行



9784816924231

原発事故篇

A5・470頁 定価(本体19,000円+税)

ISBN978-4-8169-2424-8 2013年7月刊行



9784816924248

2年分の図書・雑誌・新聞記事・視聴覚資料など

- 2011年3月11日に発生した東日本大震災から2年間に刊行・掲載・発表された図書・雑誌記事、新聞の特集・連載記事、視聴覚資料(CD・DVD)を網羅した資料データ集です。
- 「震災篇」では地震・津波に関する資料(図書のべ3,891冊、雑誌記事3,551点、新聞記事1,835件、視聴覚・電子資料285点)を、「原発事故篇」では福島第一原発事故と事故の影響などに関する資料(図書のべ2,604冊、雑誌記事3,581点、新聞記事1,260件、視聴覚・電子資料285点)を収録。図書・雑誌記事は報道、体験記録、危機管理などの見出しのもとに排列。新聞・視聴覚資料は時系列に一覧することができます。
- 「著者索引」「事項名索引」付き。

「3.11の記録」刊行委員会 編集代表 プロフィール

山田 健太 やまだ・けんた

青山学院大学法学部卒。現在は専修大学文学部教授。日本マス・コミュニケーション学会(理事)、日本出版学会(理事)、日本編集者学会(監事)、日本公法学会、国際人権法学会に所属。著書は「法とジャーナリズム 第2版」(学陽書房、2010)、「ジャーナリズムの行方」(三省堂、2011)、「言論の自由」(ミネルヴァ書房、2012)、「3・11とメディア」(トランスビュー、2013)他多数。

野口 武悟 のぐち・たけのり

筑波大学図書館情報メディア研究科博士課程修了。現在は専修大学文学部准教授、放送大学客員准教授。日本図書館情報学会、日本出版学会、日本学校図書館学会(理事)、日本子どもの本研究会(理事)などに所属。

著書は「図書館サービスの可能性—利用に障害のある人々へのサービス その動向と分析」(日外アソシエーツ、2012)、「新訂 学校経営と学校図書館」(放送大学教育振興会、2013)他、論文として「被災地における新聞販売店を活用した地域情報提供モデルの検討」(専修人文論集 90、2012)他多数。

■図書・雑誌記事 見出し例■

「震災篇」

- 東日本大震災
総合／被災／復旧・復興／社会的影響／環境への影響／報道・メディア・情報／阪神淡路大震災との関連
- 地震・災害
地震・災害と自然科学／地震・災害と人文・社会科学／防災・減災
- 写真集
- 児童書・絵本

「原発事故篇」

- 福島第一原発事故
事故／避難／賠償・訴訟／体験記／放射線・放射能汚染・リスク／報道・メディア・情報／社会的影響・風評被害…
- 原子力・核エネルギー
原子力の動向／原子力発電／電力会社／脱原発・反原発・廃炉／再稼働／放射線・放射能防御と安全対策／放射性廃棄物／環境・エネルギー問題の動向
- 写真集
- 児童書・絵本

2016.12

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	注文書	3.11の記録 東日本大震災資料総覧 震災篇 定価(本体19,000円+税) ISBN978-4-8169-2423-1	冊
		3.11の記録 東日本大震災資料総覧 原発事故篇 定価(本体19,000円+税) ISBN978-4-8169-2424-8	冊
		■お名前	

東日本大震災

総合 【図書】

- 〔00001〕危機をのりこえて新しい日本を 震災、原発、日本の前途を語る 日本共産党創立89周年記念講演 志位和夫 [述] 日本共産党中央委員会出版局 2011.8 40p 21cm (文献パンフ) 143円 ①978-4-530-01616-8
- 〔00002〕水の振動 東日本大震災に見る津波の考え方と対策 岡田一秀 [著] 日本音響学会騒音・振動研究会資料 N-2011-36
- 〔00003〕そうだったのか！池上彰の学べるニュースプレミアムボックス 池上彰, 「そうだったのか！池上彰の学べるニュース」スタッフ著 海竜社 2011.11 5冊(セット) 21cm 4952円 ①978-4-7593-1219-5

【内容】1 (そうだったのか！国家予算—編成プロセスから使い道まで、政権による違いを徹底検証) そうだったのか！政治資金規正法—「政治家とお金」(ほか) 2 (そうだったのか！普及に「待った！」) そうだったのか！検査審判—「待った」

関連する図書・雑誌記事を
テーマ別に一覧

【収録雑誌・新聞例】

●雑誌

Aera/サンデー毎日/週刊新潮/エコノミスト/週刊東洋経済/サビオ/DAYS JAPAN/Newsweek/日本写真家協会会報/週刊金曜日/文藝春秋/will/現代思想/ぎやらく/月刊民放/新聞研究/総合ジャーナリズム研究/放送レポート/子どもの本棚/大学図書館研究/東北地区大学図書館協議会誌/月刊社会教育/総合教育技術/博物館研究/月刊文化財/社会福祉研究…

●新聞

北海道新聞/東奥日報/岩手日報/河北新報/秋田魁新報/山形新聞/福島民報/福島民友/茨城新聞/下野新聞/上毛新聞/千葉日報/朝日新聞/産経新聞/東京新聞/毎日新聞/読売新聞/原子力産業新聞/鉄鋼新聞/日刊工業新聞/日刊水産経済新聞/日本食糧新聞/日本農業新聞/報知新聞/新潟日報/富山新聞/福井新聞/信濃毎日新聞/静岡新聞/中日新聞/京都新聞/日本海新聞/山陽新聞/徳島新聞/四国新聞/西日本新聞/佐賀新聞/大分合同新聞/南日本新聞/沖縄タイムス/琉球新報…

【雑誌記事】

〔00089〕吉田有里の政治時評 被災者は日本人だけではない この国に住むすべての人の安全に政府は責任があるはず 吉田有里 「週刊金曜日」19 (10) 通号853 2011.3.18 p.20
〔00090〕「被災・救援・復興」まっしぐらに突進

新聞記事(連載・特集)

北海道

◆北海道新聞

- 東日本大震災 避難生活送る子どもたち 未来への笑顔 被災地に希望 北海道内 北海道外 2011.05.05
- 3・11あの日から 宮城・気仙沼の春 2011.05.08~2011.05.15
- 明日を守る 災害への備えは今 2011.06.04~2011.06.09
- 東日本大震災 あす3カ月 それでも故郷へ帰る 記者の父 函館市から釜石市 北海道・八雲町のホタテ漁師 2011.06.10
- 東日本大震災 思い込めて一言 2011.06.10
- 東日本大震災 負けない 生きていく 帰省中奪われた未来 2011.06.10
- 復興へ 震災100日に聞く 2011.06.22~2011.06.26
- 疎開 66年前と「3・11」 2011.08.11~2011.08.16
- 巨理から伊達へ イチゴ農家の選択 2011.09.07~2011.09.10
- 3・11東日本大震災から半年 一人じゃない 胸

青森

◆東奥日報

- 3・11八戸の教訓 2011.04.26~2011.05.02
- 3・11転機 震災と知事選 2011.05.24~2011.05.30
- 3・11大震災 青森考 もろかったライフライン=第一部 消えた燃料 2011.12.25~2011.12.29
- 3・11大震災 青森考 もろかったライフライン=第二部 備蓄の限界 012.02.22~2012.02.27
- 3・11震災1年 あおもりは今 2012.03.03~2012.03.10
- 震災アンケート 首長の声 2012.03.10~2012.03.14

岩手

◆岩手日報

- 市長選に見る 北上市の課題 2011.04.14~2011.04.15
- 東日本大震災 県内経済人に聞く 2011.04.20~2011.04.24
- 平成三陸大津波 記者の証言 2011.04.26~2011.05.02
- 復興への道 いわて東日本大震災から半年

新聞記事や
視聴覚資料も網羅

視聴覚資料

- 3.11岩手・大津波の記録—2011東日本大震災—IBC岩手放送3.11震災映像の記録 [映像資料] [盛岡] IBC岩手放送 竹書房(発売) 2012.
- 4 ビデオディスク 1枚(168分):DVD 1890円
- 3.11東日本大震災の真実—未曾有の災害に立ち向かった自衛官「戦い」の現場— [映像資料] イーネット・フロンティア [2011. 7] ビデオディスク 1枚(128分):DVD 3990
- 3.11東日本大震災激震と大津波の記録 [映像資料] [仙台] 東日本放送 2011. 10
- 3.11東日本大震災—民俗芸能の応え 岩手・宮城沿岸部の1年8ヶ月の記録 [北上] 東北文化財映像研究所著 [映像資料] 東北文化財映像研究所(制作) 2012. 11 ビデオディスク 1枚:Blu-ray Disc (再改訂)
- JR東日本の奇跡を生んだ組合員の声—3・11の教訓— [映像資料] 東日本旅客鉄道労働組合 [2012] ビデオディスク 1枚(20分):DVD

刊行にあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災とその後の福島第一原発事故は、想像を絶する甚大な被害をもたらしました。

(中略)

共同代表の二人は、幾度となく被災地を訪れています。この目で現地を見て、この耳で現地の人に話を聞いて、それを発信することと記録していくことが、研究者として、いまできる支援のひとつの形と考えたからです。しかし、一研究者として発信・記録できる情報には、当然ながら、限界があることも紛れのない事実です。やはり、ほかの研究者が、記者が、そして被災者自身が、発信・記録してきた情報と一体となったとき、はじめて東日本大震災と福島第一原発事故の全体像が見え、個別に記録されている情報の意義や価値もより鮮明となると思います。そのためには、発信・記録されてきた情報の全体像がつかめるツールが必要だと考えました。

(中略)

主としてマスメディアと呼ばれる媒体において、東日本大震災と原発事故について報じられたものとして、どのようなものがあるかを明らかにすることが必要であると思ひ、本書編さんの作業に着手しました。具体的には四つの分野、すなわち、図書、雑誌、新聞、放送を対象としたわけですが、一般市民が過去に溯及して該当の表現物を確認できるか否かという観点から、放送についてはとりあえず除外し、前者の三つについて網羅的に一覧性をもって示したのが本書です。

今後、被害や事故の検証のため、あるいは防災や復興のために、どのような図書等が出されているかを概観できることは、国や自治体、大学をはじめとする研究機関、そして一般市民にとって、意味があることであると考えます。本書が、東日本大震災と福島第一原発事故の調査研究や取材の一層の充実に幾ばくかでも寄与することができるとすれば、編者としては幸いです。

(後略)